



世界を変える、  
世界は変わる——。

### 土井香苗

どい・かなえ◆大学3年生で司法試験に合格、4年生のときには独立から間もないアフリカの小国エリトリアに渡って法整備にかかわったという経歴を持つ。現在、NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」の日本代表。「頑張っている人の姿を通すことで、漠然とした問題が人間の顔になるはず」と話し、「人々の勇気を伝えたい」と意気込んでいる。



## 地球ドキュメント

# ミッション

ことしからスタートした〈地球ドキュメント ミッション〉。従来のドキュメンタリーとは一線を画した、新しいスタイルの番組だ。キャスター・堀尾正明の言葉をガイドラインに見どころを紹介。堀尾とともにキャスターを務めるサヘル・ローズ、土井香苗へのインタビューも交え、番組のメッセージを伝える。

番組ではあなたの“ミッション”も募集中！  
ホームページにアクセスしてみよう。  
番組ホームページ  
<http://www.nhk.or.jp/mission/>

携帯電話から  
メニュー⇒テレビ  
⇒NHK⇒50音順  
⇒地球ドキュメント ミッション



ON AIR

BS hi 毎週日 後9:00～9:45

囲 毎週水 前8:00～8:45

BS② 毎週月 後11:00～11:45

囲 毎週金 後3:00～3:45 (※2回の再放送は、後3:15～です)

### 目の前の壁に 立ち向かう

貧困や経済格差、戦争、人権の抑圧……。この地球上で、今もどこかで起きている過酷な現実。解決不可能とあきらめてもおかしくない深刻な問題だ。現在放送中の〈地球ドキュメント ミッション〉は、そんな問題を解決することをみずからの「ミッション」、使命とし、目の前に立ちはだかる高く大きな壁に立ち向かう人々を追う密着ドキュメント。地球規模のものから身近でありながら広く知られていないものまで、多岐にわたる問題を取り上げていく。

「これからのテレビは、夢や希望を与えるだけでなく、世界をよりよくするために、高い志を実践するためのノウハウを提示することも大切な使命なんじゃないかと思っています」

キャスターとして番組進行を担う元NHKアナウンサー・堀尾正明は、番組の意義をこう話す。「〈ミッション〉が従来のドキュメンタリーとは異なる点が、まさに堀尾の言う「ノウハウの提示」。厳しい現状を伝え、その悲惨さをただ嘆くだけではなく、問題を明らかにしたうえで、解決には何が必要なのか、共に考えていくことにある。スタジ

### ↓多岐にわたる問題

異国の地で人生を賭して弱者のために力を尽くす人から、実は利用者たちが床ずれや体の変形に苦しんでいるという車イスの問題まで、取り上げる内容が幅広いのもこの番組の特徴だ。キャスターたちが「知らなかった」と驚くこともしばしば。



番組で伝えた、利用者個人の体に合わせ座り心地を調整する「シーティング」。



ストリートチルドレンの力になると、バングラデシュに乗り込んだ日本人男性。

### ↓ミッションマスター

カンボジアの無医村に生きる人々を救うべく、インターネットを使った遠隔医療を整備する男性を追った回では、歌手のアグネス・チャンが登場。日本ユニセフ協会大使と

## 堀尾正明

ほりお・まさあき◆2008年3月、長年勤めたNHKを退職し、弱肉強食のテレビ界で孤独な闘いを挑んでいるフリーアナウンサー。「いろいろな番組を担当していますが、仕事仲間から『いい番組ですね』って言われるのが、決まって(ミッション)なんです。この番組を成功させることが、私の“ミッション”です」と決意を語る。

## サヘル・ローズ

さへる・ろーず◆4歳のとき、イラン・イラク戦争で家族12人全員を失うという悲劇に見舞われながらも、壁を乗り越え、芸能界デビューを果たしたイラン出身の女優。自身の経験から「本当に伝えたいことを伝えられる番組に出会えました。高校生や中学生、若い人たちに見てもらいたい」と力説。番組にかける思いは熱い。



オとミッション達成を目指す挑戦者、そして同様の壁を乗り越えてきた経験豊かな「ミッションマスター」とをインターネット中継で結び、一丸となって突破口を探るのだ。その過程には、誰もが参考になる困難を乗り越えるための知恵と発想、ヒントがあふれている。

しかし問題が問題。あまりに根深いため、ある一定の成果を出すことができたとしても、完全な解決を見ることはない。時にはさらに難しい問題に直面し、歯がゆさが残ることもある。だが「ミッション」は、ここであきらめない。放送後も、それで終わりにすることなく、番組のホームページで挑戦者に協力してくれる有志やアイデアを広く募り、引き続きミッション達成を後押ししていくのだ。

## 「ミッション」に挑むという生き方

また、「ミッション」に挑む人々の姿を見ると、それは、一つの生き方であることに気づくだろう。堀尾は言う。

「生き方を模索するのが難しい中で、こんなところにこういうふう活躍している人たちがいるんだというのを感じ取ってもらえるはず。しかも皆さんが自分の生き方を楽しんでい

して途上国の現状をじかに見てきた立場からアドバイスし、解決に向けて協力を惜しまないことを約束した。



挑戦者に「自分を信じて！」とエールをおくったアグネス・チャン。

## ↓放送後

「問題が大きいので、根本的な解決には程遠い。だからこそ、その後も注目してほしい」とは、制作統括の北村卓三プロデューサーの談。前出のカンボジアの無医村の問題では、番組を見た医療関係者が協力を申し出たり、アグネス・チャンが力を貸してくれる医師を探して各所に働きかけたり、今も動いているという。秋以降の放送で、その後の進展を伝える予定だ。



インターネットを使って農村の人々の命を救おうと奮闘するカンボジアの男性。



# ミッション



「この番組を見ると、必ず誰もが自分はこのままでいいのかわからないと思うんです。そういう触媒になっている番組って、ありそうでなかなかない。つまり、番組を見て人を動かし、地域を活性化させたり、国自体を動かしたり……何か世の中のためになろうとするわけです。テレビの効能の1つだと思います」

では、世界を変えるためには何が必要なのか。キャスターとして、いくつかの「ミッション」を見てきた堀尾はこう語る。

「番組をやってきて思うのは、固定観念を持たないということ。まわりから『それは無理だろ

う』って言われるようなことでも、果敢にチャレンジしていくということでしょうか。たった1人で国を動かせるなんて誰もできると思わないことを、見事にやっている人もいるわけですから。100人中99人が無理だろうって思うことでも、『それととらえる発想と行動力。その2つが両輪ですよ』

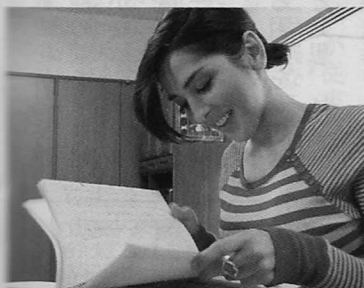
世界を変える、そう信じて行動すれば世界は変わる——。壁を乗り越えようとする人々の姿を通して、番組からの力強いメッセージを感じてほしい。



## サヘル・ローズ

私の夢は、イランに孤児院をつくることなんです。そのためにも、私も1人のチャレンジャーとして、自分が経験してきたこと、戦争のこと、どんなにゼロの状況にあってもはじかれるということを伝えたい。思い出すのがつらいこともありますけど、自分から逃げたくないんです。

それに、本当の思いをぶつけることで賛同してくれる人が現れるのが、この番組だと思っているので。私はその道の専門家でもないから、いろんな人と輪になって初めて、1人ではできないことも可能になると思うんです。皆さんも、力を貸してくれたらうれしいです。



かつての自分と同じ境遇にいる孤児たちを救うことが使命だと考えるサヘル。



## 土井香苗

私は、人権侵害を世界からなくすための活動をしています。拷問をなくすとか、子どもたちが兵隊にとられないようにするとか……直接救出に行くのは難しいので、政府が動くように働きかけるということなんです。ただ私は、仕事としてこの問題に取り組んでいます。普通の人には、何かしなくちゃと思っても具体的な行動に移すのはなかなか難しいですね。だから番組を見た人にまずやってほしいのは、周りの人に知らせること。家族と話すとか、もし不特定多数に発信するブログやツイッターをやっているなら、「こういう問題があるんだって」って伝えてほしい。政治家は国民の声を聞いているわけなので、日本中の人が一瞬でも人権のことを考えるようになったら変わると思うんです。そうやって、少しずつでも世界が変わっていったらいいなと思っています。



土井は、NGO代表として政府と渡り合う日々を送っている。

## 今週の〈ミッション〉

6/27回放送

### 「イギリス 移民女性の貧困を救う」



移民女性の就労支援に取り組んでいるトニーさん。

今回の舞台はイギリス・ロンドン東部の貧困地区、タワー・ハムレッツ自治区。アジア、アフリカ諸国からやって来た移民たちが多く暮らす地域だ。移民たちは、言葉や文化の違いから就労が難しく、特に女性たちをめぐる状況は深刻だという。

そんな移民女性の自立の道を探り、支援するという「ミッション」に挑んでいるのが、協同組合「アカウント3」の創設メンバー、ト

ニー・メレデューさん。活動開始から約20年。移民のための英語教室に始まり、保育士を養成する職業訓練、雇用創出などに取り組んできた。

そして今、トニーさんは大きな壁にぶつかっている。リーマンショックに端を発する世界的な経済不況が「アカウント3」にも直撃。移民女性の就職は、ますます狭き門となっているのだ。果たして、突破口はあるのか？